



## 芸術と科学の関係性とは？ 千住博氏が東京大学で熱血講義

千住博氏と酒井邦嘉氏によるトークショー  
「芸術と科学の対話」の様相  
(東京大学駒場キャンパス)

# Art Topics

アートトピックス

## 写

真は、さる4月28日に東京大学駒場キャンパス内のレクチャーホールで開かれたトークイベントの様相。言語脳科学者の酒井邦嘉同大学院教授と日本画家の千住博氏が、学生および一般来場者を前に、芸術と脳の機能に関するトークを行った。

イベントは、昨年12月に東京大学出版会から刊行された酒井教授の著書『芸術を創る脳』の刊行記念イベントとして開催。同書は、音楽、将棋、マジック、絵画といった世界の第一人者との対談を通じて、「芸術の力」とそれを生み出す脳機能の秘密に迫る内容であり、千住氏は、同書の第四章「なぜ絵画は美しいのか」に登場している。

エドガー・ドガが描いた3枚の《バレエの舞台稽古》や、印象派の画家たちに多大な影響を与えた歌川広重の浮世絵などが、巨大スクリーンに映し出され、それらの名画に秘められた「美と創造性の秘密」が、立場の違う二人の識者から立体的に語られた今回のイベント。千住氏のトーク同様、その後の質疑応答も活発で、トークショーというより「講義」に近い印象だったが、こういった異分野の知の交流が、芸術の新たな扉を開くようにも思われた。

酒井邦嘉氏は1964年生まれ。現在、東京大学大学院総合文化研究科教授。